

## 「自立経済実現への挑戦」

株式会社レイメイコンピュータ 代表取締役 ● 比嘉 徹



## 来

年度でいよいよ「沖縄振興計画の終了」を迎えるが、

私を含め県民の多くは、長年の公共投資依存の経済体質により、そのフリーズに恩恵を受けた実感も危機感も薄らいでいるのではないだろうか。ポスト沖振計が現状を維持したとしても延命措置にしかならない。その延命期間も、わが国の社会・経済情勢から見てそう長く続くとは思えない。私もまた自立経済実現を担うこの振興策が長期化することで依存症を誘発し、自立の妨になっていく矛盾を認識しながら、ただ傍観してきたのである。

一昨年、私は会社を創業して20年目を迎えたのを機に会社を自立させ現場を退いた。そして傍観者か

らプレイヤーとして自立経済実現のために自らフィールドに立つことを決意し、昨年の4月20日、志を同じくする6名で「チーム進貢船」を結成した。チームの使命は、その足がかりとなる地域モデル（成功事例）を創り上げ、沖縄全域に実践していくことである。最初のフィールドを読谷村に定め、4つの理念を掲げ船出した。①助成金に頼らず知恵と連携によって事業を推進する。②既存の資源を地域力で研磨し、新たな資源として再生させる。③新たな文化、芸能を創造し発信する。④若い力を登用し、実践を通して人材育成を図る。また、理念を基に地域の優位性を活かし、①イベント事業、②文化芸能創作事業、③商品開発事業、④観光資源再生事業、⑤人材育成事業の5つを柱に具体的な取組みを策定、昨年12月3日に「読谷村自立経済へのアクションプログラム」として村長へ提言した。同月の18日（土）、19日（日）にはイベント事業の第一弾として、読谷補助飛行場跡を会場に沖縄最大規模のモーターカーニバルを開催し

た。地平線を望める広大な空間は、展示スペースと駐車場が容易に確保でき、すぐ近くを国道58号が走っているため乗り入れがしやすく、住宅街から離れていることなどイベント会場としての好条件が備わっている。イベントの内容も幅広い層の人々が楽しめるよう嗜好を凝らした。スポーツカー、クラシックカー、カスタムカー、デコトラ、バイクなどのマニャックカーをはじめ、米軍の消防車、ホバークラフトと幅広いジャンルを展示した。歩行者天国となった滑走路跡ではセグウェイ（立乗り電動二輪車）が人並みを縫い、上空ではモーターパラグライダーが優雅に舞い、日没に合わせてデコトラのイルミネーションが会場を彩る。その光景に「まるで映画みたい」と声が上がった。さらに、アトラクションやステージ、子供向けの遊具コーナーも設け、非日常を演出した。来場者数は、目標の5千人を大きく上回り、2万人を超える大盛況となった。後日、新聞や業界紙、ブログなどでイベントを賞賛する声が上がった。イベ

ントの運営費も、展示車両からの出展料をはじめ、スポンサー協賛料、飲食や物販の出店料など、理念の冒頭に謳っているように知恵と連携で費用をまかなうことができた。また、同日村内で開催された他のイベントの主宰者に呼びかけ、来場者へ回遊マップを配布し、各イベントへの回遊を試みた。結果、村内の飲食店やコンビニなどから売上げがアップしたという経済効果が報告された。

この成功モデルは、行政や助成金に頼ることなく、村民の知恵と結束力で自立経済実現へ導ける可能性を示したと言える。また成功要因のひとつとしてプロジェクトチームの質の高さが上げられる。自ら志願し参画したメンバーが、それぞれの分野のノウハウを融合させ、新たな発想で課題やコスト削減策などを容易に且つスピーディーに解決していった。

現在、チーム進貢船への参画者は40人を超え、推進力が大きくアップした。他の事業も着実に芽吹き始めている。目指す港を視界に捉えるのもそう遠くないと感じている。